

# Dream Plan

平成25年度 ドリームプラン

デザインフェスタ vol.38(2013)

高さ 3.6m × 幅 8m 巨大ライブペイントに挑戦！

家政学部家政学部 造形表現学科 河井あずさ

私は11月に東京ビックサイトで開催されたデザインフェスタ vol.38 にて高さ 3.6m × 幅 8m の壁に2日間で絵を描き上げる巨大ライブペイントに挑戦しました。去年開催されたデザインフェスタ vol.35 で、私は大きな壁にお客さんの前で絵を描き上げる、「ライブペイント」をはじめてさせて経験し、人生が変わるような衝撃がありました。この時、私をライブペイントに誘ってくださったデザインフェスタの方に「いつか君にもあのデザフェスの巨大ライブペイントをやってほしいな」と声をかけてくださり、その日からずっと今回挑戦することとなった巨大ライブペイントをやりたい！という気持ちを抱いてきました。

そんなデザインフェスタの目玉の一つでもある巨大ライブペイントをさせていただけることになり、いろいろな準備もしてきました。少しでも多くの方に観ていただくためにダイレクトメールの制作をし、大学やギャラリー等に置かせていただきました。また、イベントが学園祭の翌週だったこともあり、絵をたくさんの方の前で描く練習や宣伝活動も兼ね学園祭でもライブペイントを行いました。そして当日のため、着用するつなぎに自分らしいペイントを施し、来て下さった方々にもっと自分を知ってもらうためのポートフォリオ作りや、ポストカードや雑貨等のグッズ作りも行ってきました。

そして準備万端で迎えたイベント当日。物販や脚立の上へと絵具を渡すことをお願いや脚立を運んでもらうなどのアシスタントとして大学の友達3人に手伝ってもらい、また知り合いの方がライブペイントの映像を作っていただけになり、たくさん仲間が今回の私の挑戦を協力してくれました。いままで普通にデザインフェスタに遊びに来て観ていた時は本当に大きくてあんな大きな絵だった二日で描けるのだろうかと感じていましたが、実際に高さ 3.6m × 幅 8m の壁を目の前にしたとき、不思議と大きいということの迫力や恐怖よりも、こんな大きな画面いっぱいこれから絵が描けるのだと思うと楽しみな気持ちでゾクゾクするような興奮の方が勝るものでした。絵具や荷物の準備を済ませ、アシスタントのみんなとおそろいのつなぎを身にまとうとさらにやる気が増していきました。

はじめに大きな壁に真っ赤な絵具をおもいきり塗りたくり、そこからどンドンと描き進めました。私にとってこの憧れの壁で絵を描かせていただけたということが私にとって何より幸せで、本当に無我夢中で二日間休むことも忘れて描き続けました。夢中になりすぎた故に時間が過ぎるのはあっという間で、気がつけば作品が完成していて、まわりを見渡すとたくさんの方が私の作品の完成を観に来て下さって



いました。

完成直後は持てる力を全て出し切って抜け殻のようになり、あまり自分が描き切ったという実感がなかったのですが、時間が経つとともにいろいろなことを思い出し、自分は何かとても大きな壁を乗り越えたのだと、いままでの思いや感情が一斉にこみ上げてきました。

ちなみに今回の作品の意味は、牛は私を絵の世界に連れてきてくれたピカソの象徴(ピカソ自身よく自信を雄牛に例えた絵を描いていた)、人は私自身で、馬はこれからの未来へ導いてくれる存在。つまりこの絵は額から飛び出したピカソが私の背中を押して、馬とともにこれからの未来へ向かっていく、という希望をもった絵なのです。

今回のライブペイントを終えて感じたことは、本当にたくさんの人に私は支えられているのだということです。実際最初から最後まで絵を描いたのは私一人かもしれませんが、後援会の方々の支援はもちろんのこと、この舞台を提供してくれたデザフェスの皆さん、当日手伝ってくれた友達、私の絵を見に来てくれて励ましの言葉をかけてくださった方々がいて、はじめて絵を完成させることができたという強き実感しています。

特に手伝ってくれた友達からは、当日私は絵に集中しすぎてあまり多くの方から直接反響を聞くことができなかったのですが、あとから観てくれた人がこんなこと言っていたよ、と教えてもらい、本当に嬉しかったです。

そして今回の経験は自分にとって本当に自信のつながるものでした。あれだけ大きな絵をたった二日で描ききることができたこと、大きな画面でもイメージ通りの構図で描きたかったモチーフも描ききることができ、また普段描ききれない馬や牛といったモチーフに挑戦したことなど、自分にとって大きさ以外にも色々な挑戦や発見をすることができました。

また、前回のデザフェスで私に巨大ライブペイントをすすめてくださったデザインフェスタの方も本当に忙しい中合間を縫って観に来てくださり、「最高！」と言って手を握り締めてくださって、去年のライブペイントから成長した姿をお見せできたのではないかと心から感じました。

今回の経験を生かして今後も自分の表現を信じ、どんどんさらにおおきな挑戦をしていきたいと思います。そして自分を支えてくださっている方々への感謝を忘れずに創作活動を続けていきたいと思います。後援会のみなさまをはじめ、今回支えてくださったみなさま、本当にありがとうございました！

